



とうごう農学校圃場

いることが理解できました。また、本年はNPO公募提案型事業の募集が行われ、住民協働と、多様化する住民ニーズへの対応の観点から、今度一層の活用が期待されます。

経済建設部では、「春木川ウォーキングロード」の整備や、「公園愛護活動助成事業」など今年度から着手する新たな事業を紹介されました。いずれの事業も、環境整

備が、住民の暮らしに密接に関わるものであり、委員からも、その進捗状況や成果などに質問が寄せられました。

現地視察では、住民の声を十分に反映し、また、地形をそのまま利用整備された「白土第二公園」や40周年記念事業として実施され、県内市町村の木が植樹される「愛知池県民参加森と緑づくり植樹祭」会場、また、きゅうりやなすなどの夏野菜の栽培がおこなわれている「とうごう農学校」圃場などを視察しました。
(経済建設委員長 水川 淳)

民生常任委員会

民生委員会は新たな委員での町内研修を、5月17日に行いました。最初



現状説明に耳をかたむける委員

に民生委員会の管轄である健康部、福祉部の各課より、平成22年度の主要な事業とその予算について説明を受けました。

健康部は、今年度は診療所の見直しという大きな課題を抱えています。4月から始まった「土曜日午後の診察」実施や、6～11月の第2・4日曜

日午前中に行われる「胃ガン・大腸がん検診」など、新たな試みがどれだけの新規患者につながる

か、これからの推移を注視する必要があります。

福祉部には、福祉課・長寿介護課・子育て支援課の3課があります。車いすでも楽しめる新たなスポーツ「カローリング大会」の実施や、いこま館2階のおもちゃ広場に、週3回開設される「つどいの広場」など、新規事業が注目されます。

その後、0歳児保育の実施状況や、懸念事項である保育園の老朽化の実際を見るため、南部保育園への視察を行いました。

南部保育園は昭和50年に開園し、0歳児保育と緊急一時保育を平成12年から開始しています。現在は、定員130人のところ、

園児は6月時点で16人。0歳児は5人あり、独立した1歳児クラスもあります。

乳児の離乳食は園内のミニキッチンで調理していますが、調理場所が狭いのが難点とか。雨漏りする所があるなど園舎の老朽化も進んでおり、立て替えを含めた今後の計画策定を行う必要があることを認識した研修となりました。

(民生委員長 山下 律子)



南部保育園